

情報化オフィスに向けた各種アプリケーション実験

那須幹裕* 和田信義**
土井日輝* 北川健一***
清水道夫*

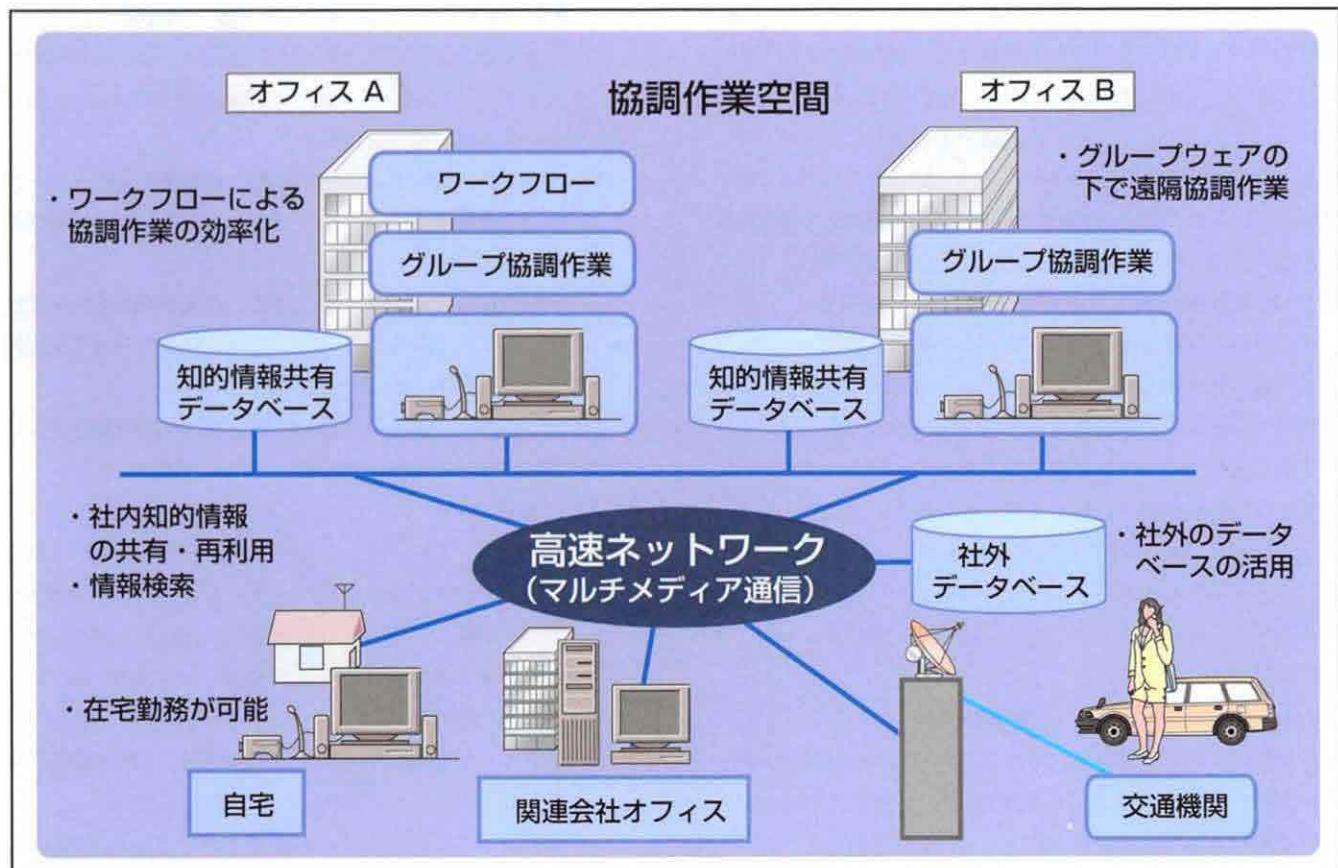
要旨

世の中の情報通信のマルチメディア化が進む中、情報技術の革新やユーザニーズの高度化・多様化が急速に進んでいる。

このような状況の下、三菱電機(株)では、ホワイトカラーの生産性・創造性向上及び組織全体の“集合天才”化を目的に、情報化オフィス環境の構築を推進している。

この一環として、将来的な高速通信ネットワークによる“マルチメディア通信”の環境を構築し、新しいマルチメディアアプリケーションの開発と利用技術を確立するため、1994年度から、日本電信電話(株)(NTT)が主催している“マルチメディア通信の共同利用実験”に参画した。

実験を、東京・横浜・大船・尼崎の4拠点間に高速通信ネットワーク環境を構築して行った。アプリケーション実験では、①JAD(Joint Application Design)システムによる遠隔での同期型協調作業の有効性検証、②デスクトップ会議システムによる3拠点での会議において、従来のコミュニケーション手段との比較による有効性検証、③3DCADによる知的概念設計の遠隔協調作業に向けた有効性検証、④既存通信サービス(音声、フレームリレー)を高速通信ネットワークへ収容した場合の各サービスに与える影響度、及び高速通信ネットワークの統計多重化効果による帯域の有効活用性検証、を行っている。



情報化オフィスの概念図

情報化オフィスとは、高速通信ネットワークによるマルチメディア情報を活用した知的協調作業環境である。これを実現することにより、ホワイトカラーの生産性・創造性の向上及び全体の集合天才化を図る。